

公明 墨田 総支部 あれこれ実績

1 防災・減災対策

●東白鬚防災拠点の整備

- ・災害時に活用するマンホールトイレを20基の汲み取り方式から80基の水洗方式に。その他、都と区の災害用トイレ96基と合わせて176基に
- ・非常用コンセントの緊急使用が可能に
- ・給水拠点の復活

増設したマンホールトイレ▶



●マンション・戸建て住宅への支援

- ・「東京とどまるマンション」を普及促進し、防災備蓄資材購入への補助を実施
- ・災害時におけるトイレ環境を確保
- ・戸建て住宅の耐震改修に伴う補助限度額を引き上げ

加藤都議(右端)らが、1番目となる「居住継続性能住宅」のトミンハイム横川を視察



2 子育て支援

●バースデーサポート事業の充実

1歳を迎えた子を育てる世帯へ「育児パッケージ」を配布。第2子は2万円、第3子以降は3万円に増額



●家事育児サポーター事業の推進

3歳未満までに対象を拡大

●産前・産後サポートや産後ケアなどへ手厚い助成を実現



3 まちづくり

●放射第32号線の道路を拡幅
区内初の自転車双方向専用レーンを設置

押上3丁目交差点～京島交差点までの車両のスムーズな運行、歩行者や車いすなどの円滑な歩行空間を創出



完成予想図

あの実績は今!?

◆予算ゼロの
広告付バス停

この10年で
都内 82基 → 684基
設置費用を
約69億円削減
+ 広告収入

◆排水栓で
地域防災力アップ

この10年で
23区内 406カ所 → 9294カ所
墨田区内 15カ所 → 192カ所



4 健康を守る

●各種ワクチン接種への助成

帯状疱疹(ほうしん)、おたふくかぜ、小児インフルエンザ、HPVワクチン男性接種への助成を実現



党派を超えて更生保護施設の改修支援に奔走!!

人生の再チャレンジを支援する「更生保護施設」。身寄りのない元受刑者たちの更生と自立を促し、国も「再犯防止の最重要拠点」と位置付けています。業平に立つ更生保護施設「ステップ押上」は老朽化で建て替えが必要になっていましたが、費用は国の補助だけではまったく足りず、資金集めは難航していました。公明・加藤都議は、以前から同施設を視察し、役割の重要性を認識していました。他党の議員からも相談を受けた加藤は、都の担当部署と連携を図り、支援を求めました。ですが、当初、担当職員は取り合ってくれませんでした。

しかし、加藤は諦めません。他県の財政支援の実例などを示し、支援団体から出された請願の紹介議員となり、都議会の中で合意形成に奔走。議会で全会一致の採択となり、都として財政支援に大きく舵を切ることが決まったのです。いくつもの壁を乗り越え、24年11月6日に落成を迎えました。同施設は、「地域交流室」や災害用備蓄庫なども備えており、地域の欠かせない拠点となっています。



内覧会に出席した加藤都議

かわら版

公明党

すみだ総支部NEWS

来夏の東京都議会議員選挙

加藤まさゆき 公認が決定!



子どもから高齢者まで、すべての人々の暮らしを守るため加藤は全力で地域を駆ける

公明党は2024年7月11日、党中央幹事会を開き、25年の東京都議会議員選挙の第1次公認を決定。墨田区(定数3)では、現職4期の加藤まさゆき氏を公認しました。5期目を目指す加藤氏は「徹してやり抜く、をモットーに、どんな小さな声にも耳を傾け、皆さまの暮らしを守るため、全身全霊で走り抜いてまいります」と決意を述べています。

【略歴】 党都本部副幹事長、同組織局長。都議会都市整備委員会理事。都議4期。創価大学法学部卒。60歳。都民・区民相談件数は今期3年半で約2000件

暮らしを守る
都議会公明党

—負担の軽減—

実質所得の増加に貢献

身の回りで続く、物価上昇。これまで都議会公明党は、「庶民の暮らしを守る」多くの対策を講じてきました。皆さまの声を都政で訴え、各世帯の「実質所得の増加」にもつながった、負担軽減策を紹介します。

実現した負担軽減策等

●キャッシュレス決済(Pay Pay)のポイント還元→ 最大30%還元 (22年実施)

●非課税世帯に「お米クーポン」→ 1万円相当 (23年) ※24年は商品券等で実施

●介護職員等に居住支援特別手当→ 月最大2万円 (24年から実施)

●高校授業料実質無償化(所得制限なし)→ 年最大48.4万円負担減 (24年から実施)

●高校3年生までの医療費を無償化→ 年平均2.6万円負担減 (23年から実施)

●小中学校給食費の無償化→ 年最大約7万円負担減 (23年から実施)

●保育料の無償化→ 月最大10.4万円負担減 (0～2才の第1子以外。〈23年から実施〉)

※25年10月からは第1子も対象へ。3歳以降は国が実施済(19年から実施)

小さな声ももらさず 徹して形にする!

国・都・区で光る公明党のネットワークの力

地域に根ざした活動を展開する公明党墨田総支部は、小さな声を聴き、国・都・区の名議員の綿密な連携で、数々の政策を実現してきました。墨田区の山本とおる区長も「公明党の素早い動き、ネットワーク力のおかげで区政が大きく前進しています。欠かせない存在です」とコメントを寄せています。ここでは、その一部の実績を紹介します。

豪雨災害が心配!

荒川第一調節池の、事前放流、が実現

2019年10月に発生した台風19号。関東でも多くの被害が生じ、荒川は氾濫危険水位まであと約50センチに迫っていました。もし氾濫すれば、広範囲で浸水被害が起きる恐れがありました。

◆今後も危機が来る可能性がある。対策を!

公明党の岡本三成衆院議員(現政務調査会長)と都議会公明党は、この豪雨の後、速やかに行動を開始。カギを握る荒川第一調節池を視察しました。

岡本氏は翌年の衆院予算委員会で、「(大雨の予報が発表された際)荒川第一調節池(容量3900万立方メートル)を”事前放流”して、治水量を増やせば住民は安心するのではないか」と質問。赤羽国土交通相(当時)は「関係利水者と協定を結び、検討したい」と応じました。

◆協定締結を都議会公明党が後押し

この第一調節池は、東京都と埼玉県が利水者として管理。渇水時に活用する観点から、両



2019年の台風19号で増水した荒川の様子。氾濫危険水位まで約50センチに迫った

都県は当初、事前放流に難色を示していました。都議会公明党は、「水害からいのちを守るためにも事前放流を可能にすべきだ」と、都に強く訴え続けたのです。

粘り強い交渉の結果、**2020年12月、事前放流を可能にし、水害を未然に防ぐ対策を講じるための協定を締結することができました。**

現在では、さらに都内の地下調節池等の整備も進めており、公明党は水害に強い東京のまちづくりに引き続き全力を上げていきます。

狭くて危ない! なんとかして

鐘ヶ淵駅踏切の安全対策を推進

鐘ヶ淵駅の踏切は歩行者エリアが狭く、事故の危険性が高まっていました。公明党は地域住民からの要請を受け、踏切内の歩道の拡幅整備を推進。都・区で連携し、人だまりの待機スペースも広げ、安全性を確保しました。地域住民からは感謝の声が上がっています。



以前は歩行者エリアが狭く、事故の危険性が高い状態が続いていた

色分けを行い、人だまりスペースや歩行者エリアを明確にし、安全性を高めた鐘ヶ淵駅の踏切

文花1丁目団地跡地にインクルーシブ保育園

療育支援のある保育園がほしい!

文花1丁目団地33・34号棟跡地に療育と保育の両方を行うインクルーシブ教育機関として保育園の設置が決まりました(2029年度開設予定)。子どもたちの共生意識を育む施設として期待されています。



インクルーシブ保育園予定地前で地元の方と懇談する加藤都議と高橋典子区議

未利用都有地の活用 to 奔走

職安跡地を有効活用できないの?

2002年に閉鎖し、20年余り活用されなかった旧職業安定所の跡地(東駒形4丁目)。公明党の加藤都議と区議団が連携し、都と区、そして地域住民の間に入り調整を続けてきました。その結果、老朽化の著しい東駒形保育園の改築に合わせ、仮園舎を整備することが決定。地域の要請に応えた未利用土地の有効活用が実現しました。

